保健指導実践者の行動目標(原案):106項目

1.「健診・保健指導」事業の企画・立案・評価

1) データを分析し、優先課題を見極める能力

1	対象から得られた情報(健診・問診データ)を基にデータベースの作成している
2	健診データを統計ソフト(EXCEL、SPSSなど)を用いて、受診率・有所見率・有病率を算出している
3	問診データ(生活習慣・自覚症状・既往歴・現病歴など)より、リスクの比率を算出している
4	医療費データを統計ソフトを用いて分析している
5	健診・問診・医療費データより情報の関連性を査定している
6	対象集団のデータを年齢階層別・地域内(県・市町村・校区)・事業所内の特性に基づいて分析している
7	個別・集団の経年的なデータの推移に基づいて分析している
8	特定保健指導の階層化の基準に沿って対象者を選別している
9	日頃の保健活動より対象者の健診・保健指導に対する要望・健康に関連する情報(健康意識・生活背景など)について情報収集している
10	市町村や事業所の健康管理に関する方針・予算計画・要望について理解している
11	施設内外で活用できる資源(人的・物的・情報など)について情報収集している
12	既存の保健活動やモデル事業を通して改善点を把握している
13	国・県・その他政令市、その他市町村・その他事業所等の統計データを用いて比較し、優先課題を抽出している
14	他の保健指導者(管理栄養士・健康運動指導士など)の意見を聞いて優先課題・順位を決定している
15	保健指導者のマンパワーを勘案して実施可能な対象者数を算出している
16	緊急性・重大性・簡易性・コストパフォーマンスを考え、優先順位を決定している
17	対象者の健診・保健指導に関する動向・要望、市町村や事業所の健康管理に関する方針・予算計画・要望に合った優先順位の決定している

2) 健診・保健指導の企画・調整能力

1	対象者からの問い合わせや苦情を受ける窓口を設け、対応できる体制を整えている
2	責任の範囲内で、組織の機能と資源を管理している
3	プライバシーの尊重への保障(通知方法、場所など)を決めている
4	保健指導のプログラム、実行プロセス、結果評価を企画している
5	厚生行政・財源等についての最新の情報を持ち続けている
6	保健指導プログラムの計画、開発、実施において地域公衆衛生の専門家の支援を得ている
7	特定健診・特定保健指導の制度(社会的背景・目的・意義・方法など)の理解に努めている
8	日頃から組織内外関係者との関係づくりができ、コミュニケーションを行っている
9	特定健診・特定保健指導の実施にあたり必要な人材の見極めをしている(営業・検査・SE担当者、産業医・医師会、国保係・介護保険係・健康係、委託先、栄養士・トレーナーなど)
10	特定健診・特定保健指導の実施に必要な人材・関係者を集め、会議を開催し、制度を理解してもらうための教育・説明をしている
11	特定健診・特定保健指導に関する最新の情報を積極的に得ている

12	獲得した情報を様々な媒体(メール・パンフレットなど)を通じて関係者へ伝えている
13	関係者間の情報を共有化している
14	関係者の役割・業務内容・業務の流れについて調整している
15	プログラム実行のための財源を確保している
16	これまでの実績や利益・損益のバランスを考え、特定保健指導料金の設定している(労働衛生機関)
17	当該市町村・事業所に適切な委託機関と連携している(事業所・市町村)
18	既存の保健活動やモデル事業を通して改善点を把握し、より良い特定健診・特定保健指導プログラムに修正している
19	対象者の利便性に配慮したプログラムの作成している
20	既存の社会資源を把握し、活用できる体制の整備している
21	当該市町村・事業所に必要な社会資源の開発している
22	特定健診・特定保健指導に必要な分かりやすいマニュアルの作成している
23	仕事量とマンパワーの査定を行い、優先課題・順位について、再度検討を行っている

3) 評価能力

1	保健指導者の保健指導を評価できる。評価できるツールを開発している
2	現実的で達成可能な健診受診率、保健指導実施率、メタボリックシンドロームの改善率を設定している
3	健診受診率、保健指導実施率、メタボリックシンドロームの改善率を評価している
4	プロセス評価(対象者の満足度、実際の場面、記録、継続率など)ができるような計画・行動目標を設定している
5	評価結果に基づき、保健指導などの保健事業計画を改善している
6	保健指導にかかったコスト(人件費、教材など)を評価している
7	顧客へ保健指導結果をフィードバックしている
8	委託先機関へ評価をフィードバックしている
9	モデル地区・事業所から改善を行い、改善事例を基に他地区・事業所の改善を行っている

4) 保健指導の質を確保できる能力

1	組織で決めた標準的なルール(物品・情報管理など)を守っている
2	保健指導プログラムに規定された保健指導の実践の基準(挨拶・教材・記録など)を守っている
3	保健指導実践に必要な技術(カウンセリング・コーチングなど)について研修を実施している
4	質の確保のために必要な事例収集を行い、プロセスレコードの振り返り・事例検討会を行っている
5	保健指導研修にロールプレイを取り入れている
6	社外教育・社内教育を取り入れた教育プログラムを構築している
7	OJTの教育体制を整えている
8	新規採用者(非常勤スタッフを含む)の指導・教育を行う体制や研修プログラムを作成し実施している
9	新規採用者(非常勤スタッフを含む)の保健指導レベルを段階的に判断できる基準と方法を持っている
10	保健指導の質を改善するために研究・最新の知見についてモニターし、取り入れている

11	保健指導者の質の確保ができる教育プログラムを構築でき、プログラムの見直しを行っている
12	グループダイナミクスを用いた保健指導を行っている
13	ポピュレーションアプローチの企画・立案・実施を行っている
14	自己の保健指導の実践の質をモニタリングしている
15	専門職として業務・役割の範囲を明確にしている
16	専門職として技術(コミュニケーション技術など)・能力(アセスメント・問題解決など)の範囲を明確にしている
17	質の改善に向けて関係法規・制度の改善を政策提言している
18	専門分野以外の知識(組織論・経営学など)を保健指導の質の確保に活用している

5) 保健指導プログラムを開発する能力

1	プログラムの評価結果に基づき、常に新しい知見や情報を取り入れている
2	定期的にプログラムの改善と開発を行っている
3	保健指導に関する研究や質の向上の取り組みを学会や雑誌に発表し、次のプログラムの開発に取り入れている

6) 保健指導の委託に関する能力

1	費用対効果が高く、結果の出る事業者を選択している(アクセス、費用、効率、質等を考慮する)
2	適切に業務が行われているかモニタリングしている

2.対象者に対する健診・保健指導

1) 健診結果と生活習慣の関連を説明できる能力

1	健診・問診データ、年齢、性別、自覚症状、既往歴・現病歴・家族歴について情報収集している
2	家庭環境(家族など)、職場状況(職種・仕事時間・労働観など)、健康観(健康への興味・健康行動など)、生活状況(趣味・仲間・悩み・大切にしていることなど)を情報収集している
3	基準値を理解し、個人史・健康歴から健診データと生活習慣との関連をアセスメントしている
4	分かりやすい言葉で健診結果を説明している
5	健康診断結果を用いて、将来の病気の可能性・リスクについて分かりやすい言葉で説明している
6	明確にされた健康問題を対象者に適切に説明している

2) 対象者との信頼関係の構築

1	データや計画を伝える際、秘密を守り、対象者の尊厳とプライバシーを保ちつつ、法律にもとづくケア記録を提供している
2	日頃の健康支援活動から見守り・声かけしている
3	対象者、保健師関係の良好な関係が保てない場合、速やかな対応ができる協力体制を作っている
4	基本的なマナーで挨拶ができ、保健指導の目的を説明している
5	対象者の健康について、関心があり心配している気持ちを伝えることができ、支援者として熱意ある態度で接している
6	対象者とともに達成可能なゴールを設定・計画し、長期的な視点で継続的に支援している
7	健診結果に個別のコメントを記載し、対象者にとって有益な情報を提供している
8	対象者の要望に対しては誠実に対応し改善を行っている
9	保健指導者自身の健康状態を良好に保っている

3) アセスメント

1	対象者の準備状態や動機付け、ゴールの再設定、最適な成果について繰り返しアセスメントしている
2	対象者が生活習慣改善の必要性を理解し、行動目標を決定するために必要な知識・理解力を査定している
3	根拠をもって、保健指導の優先順位(緊急性・タイミング・実行可能性など)を決定している

4) 相談・支援技術

1	スタッフ間において、適切な用語、書式、技術を用いて対象者の健康状態を伝えている
2	学習効果を強化するような支援プログラムを作っている(フィードバックや、練習・強化・支持を組み込んだ)
3	積極的傾聴法(受容・共感・自己一致)を用いて、対象者の話を聞いている
4	対象者に実行可能で具体的な生活習慣改善目標を設定している
5	相手の要望を聞きながら、受け入れやすい選択肢を示している
6	良くなっていることは褒めるなど、必要時フィードバックを行い、自己効力感に働きかけている
7	対象者自らが、家族や職場など周囲の協力を得られるように支援している
8	所定の時間以内で保健指導を実施している

7) 学習教材の開発

1	絵やグラフなどを用いて分かりやすい指導教材を作成している
2	対象者の自発性や主体性を引き出せる教材を作成している
3	既存の教材や市販されている教材(ソフト・パンフレット・本)を組み合わせ、対象者に合わせた教材を開発している
4	最新の情報を収集し、対象者の知識・理解力・興味や生活習慣への取り組みに合わせて随時教材を更新し改善している
5	保健指導者だけでなく、一般の人の意見を聞き、教材を開発している

8) 社会資源の活用

1	周辺地域の医療機関・健康増進施設・その他健康支援相談施設などの病院の情報整理を行っている
2	必要時に適切な他の専門家や機関(病院、スポーツクラブ、料理教室など)と協力している
3	保健指導に必要な資源(施設、教材、ツール、スタッフ、資金)を活用している